◆第5学年 学習指導案◆ 「日本の音階で旋律をつくろう」

教材:都節音階

沖縄(琉球)音階による旋律づくり

東京都公立小学校

1. 題材の目標

- ○音階の音の響きやその組合せの特徴をそれらの生み出すよさや面白さと関わらせて理解し、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付ける。
- ○音色や旋律,音階,拍などを聴き取り,それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら,聴き取ったことと 感じ取ったこととの関わりについて考え,即興的に表現することを通して,音楽づくりの様々な発想をもつ。
- ○楽器の音色を生かして日本の音階で旋律をつくることに興味・関心をもち,音楽活動を楽しみながら主体 的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組む。

2. 題材のねらい

(1) 児童の実態について

4年生時には、3種類(ミソラ、ドミソ、ドド#レ)から好きな3音を選び、音の動きを意識しながら即興的な旋律づくりをした。また、「日本の音楽でつながろう」の題材で「さくらさくら」を箏で弾いた際に、「さくらさくら」の音階の音で即興的に旋律をつくってリレー奏も行った。5年生では「小さな約束」の学習において、イ短調の旋律の特徴に気付き旋律の動きから感じたことや考えたことを共有したり、「春の海」の鑑賞において、筝と尺八の音色や「間」の取り方から、曲のよさや面白さについて話し合ったりした。常時的な活動で教師や友達のつくったリズムや旋律に即興的にこたえる活動を行ったことはあるが、ペアやグループでの音楽づくりを行った経験はまだない。少人数での音楽づくりの活動を充実させることで、我が国の伝統的な音階の響きに親しみ、音楽づくりの様々な発想を得ながら他の人と一緒に即興的に旋律をつなげる喜びや楽しさを感じられるようにしたい。

(2) 題材について

本題材ではまず、昨年度児童が運動会で踊った「エイサー」の沖縄音階と、筝で演奏した「さくらさくら」の都節音階の2つの音階を振り返り、比べながら鑑賞したり歌ったりしてそれぞれの特徴や雰囲気の違いを感じ取る。次に、それぞれの音階の雰囲気を生かしながら即興的に呼びかけとこたえの旋律づくりをする。その経験を生かして3人組で「沖縄音階」と「都節音階」のどちらかの音階を選び、呼びかけとこたえや反復を用いることを条件に、即興的に旋律をつなげて自分たちの音楽を表現する。短い旋律を反復させたり旋律の上がり下がりやリズムに気を付けて呼びかけ合うようにしたりと、即興的に旋律をつなげて表現する中で、我が国の伝統的な音階の特徴をそれらが生み出すよさや面白さと関わらせながら理解し、旋律をつなげる様々な発想を広げ、友達と協働して主体的に音楽づくりに取り組むようにする。本題材の学びが、思いや意図をもって音を音楽に構成していく音楽づくりの学習につながることを期待している。

(3) 学習指導要領との関連

【A表現: (3)音楽づくり】

- ア (7) 即興的に表現することを通して,音楽づくりの様々な発想を得ること。
- イ (ア)いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴
- ウ(ア)設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能

[本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素]

ア 音色,旋律,音階

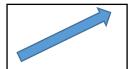
イ 呼びかけとこたえ, 反復

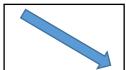
3 教材について

● 都節音階と沖縄(琉球)音階を使った即興的な旋律づくり

○4人もしくは5人で4分の4拍子 8小節の旋律を即興的につくる。

- ・反復や呼びかけとこたえで、即興的につなげる。
- ・使用音はラドレミソ (都節音階), ドミファソシ (沖縄音階)
- ・呼びかけ(A)こたえ(B、C、D)とオスティナート伴奏に分かれて旋律をつくり、演奏する。 【旋律の動きと連なり方】(上がり下がり)











◇ オルフ楽器 (ミニグロッケン)

音板を取り外すことができ、音階の構成音を理解しやすくしたり、演奏を容易にしたりすることができる。また、リコーダーに比べ、音の動きを視覚的にとらえやすい楽器である。

◇ ミニキーボード

「五音音階シート」の都節音階と琉球音階を使用する。使う五音以外がシートで隠れるようになっており、子供たちが容易に五音を選んで演奏することができる。

常時的な活動の工夫

普段のリズムによる音遊びに加えて3音や5音を使った模倣やリレー,旋律の動きを意識しながら教師の呼びかけの旋律にこたえる旋律を即興的につくる常時的な活動を行う。発想や,感じたことを全体で共有しながら,即興的に旋律をつくることに慣れ,本題材の学習に生かしていきたい。さらに,本活動を通して,児童が思いや意図をもってリズムを選んだり,旋律をつくったりできるようにする。

学習形態の工夫

学級全体で即興的な旋律づくりを行う時は、教師と子供全体、一人、グループなどいろいろな形態を とることによって、旋律をつくることに無理なく取り組めるようにする。ペア活動では、相談しながら 安心して取り組めることはもちろん、音楽や言葉での対話を通して学びが深まっていくように、課題と 手順を明確に提示する。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知:音階の響きや構成音,それらの組	① 我が国の伝統的な音階や旋	① 我が国の伝統的な音階
合せの特徴について、それらが生み出	律を聴き取り、それらが生	を使って旋律をつくる
すよさや面白さなどと関わらせて理解	み出すよさや面白さを感じ	ことに興味・関心をも
している。	取りながら、聴き取ったこ	ち、音楽活動を楽しみ
② 技:発想を生かした表現をするために	とと感じ取ったことの関り	ながら主体的・協働的
必要な、選んだ音階の音で旋律をつく	について考え, 旋律の音の	に音楽づくりに取り組
ること, 反復や呼びかけとこたえを使	動きや組合せを工夫し、旋	もうとしている。
うことを条件に、即興的に音を選択し	律づくりの様々な発想を得	
たり組み合わせたりして表現する技能	ている。	
を身に付けている。		

本時の評価の進め方と期待される児童の姿

【本時の評価規準】

○我が国の伝統的な音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取 ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、即興的に音の組合せやその動きを工夫し、旋律づ くりの様々な発想を得ている。

【Aと判断される児童の状況】

常時的な活動を生かして音の動きを試行錯誤したり,リズムの反復のよさに気付いて活用したりして即 興的に旋律を表現することを通して、友達にもアイディアを伝えられるほど様々な音楽づくりの発想を 得ている。

【Cと判断されそうな状況への手立て】

常時的な活動の音の動きの例を示し,音階のよさを生かした旋律をどのようにつくればよいのか一 緒に 音を出して旋律を試したり、友達の旋律を一部模倣してよいことなどを助言したりする。

6 題材の指導計画と評価計画 (3時間扱い)

○ 学習内容 · 学習活動 ◇ 教師の働き掛け◆ 評価規準〈評価方法〉 **<第一次のねらい>**「都節音階」「沖縄音階」の響きやその組合せの特徴について、そのよさや面白さと関 わらせて理解する。

- ○「都節音階」「沖縄音階」の響きを感じ取る。
 - ぞれの違いから気付いたこと,感じたことを伝え 合う。

【予想される児童の発言】

<さくらさくら>

<琉球エイサー>

和風

・ 明るい

・しぶい

・にぎやか

落ち着いている

・タッカのリズム

• 藤色、藍色

- ・ 間がある ・間が少ない
- ○それぞれの音階の特徴が生み出すよさや面白さを 感じ取りながら, 即興的に旋律をつくる。
- ・教師の8拍の旋律をミニキーボード,ミニグロッ ◇都節音階,沖縄音階,両方で行う。

「さくらさくら」,「琉球エイサー」を聴き、それ | ◇口ずさみながら聴くよう促し、学習した時の様 子を思い出しながらそれぞれの違いに気付ける ようにする。

ケンで模倣したり、こたえの旋律をつくったりす ◇楽器に合った奏法を意識するよう声がけする。 ◇こたえ方を共有する。 る。 ・ 反復 (くりかえし) 少し違う ・反対 / 違う ・何人かの児童のつくった呼びかけの旋律に教師や ◇つくったときの考えを共有し、旋律の音の動き ほかの児童がこたえの旋律をつくる。 やリズムについての発想を得られるようにす る。 ○旋律の上がり下がりやリズムを工夫して一人で即 ◇「都節音階」「沖縄音階」どちらかを選んでつ 興的に8拍の旋律をつくる。 くるよう声がけする。 ・教師の呼びかけの旋律に、音の動きや終わりの音 を意識してこたえの旋律をつくる。 ・つくった旋律を演奏している様子を撮影し、クラ ◆音階の響きや構成音、その組合せの特徴を を, それらが生み出すよさや面白さなどと関わ スルームの課題に提出する。 らせて理解している。 ・振り返りをワークシートに記入する。 <①知(演奏・動画・ワークシート)> <第二次のねらい>「都節音階」か「沖縄音階」かどちらかを選び旋律をつくること,反復や呼びかけとこ たえを使うことを条件に、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する。 ○友達の旋律に、こたえる旋律を即興的につくっ て楽しむ。 ◇前回つくった都節音階, 琉球音階それぞれの旋 ・友達の旋律を聴き、それにこたえる旋律を即興 律から教師が選んだ旋律を呼びかけにする。 的につくる。 ◇どのようなことを考えてつくったのか発想を共 有するようにする。 ○音階を選び、反復や呼びかけとこたえを使うこ とを条件に、3人で即興的に旋律を組み合わせ る。 ・グループでつくる旋律の音階を決める。 ◇呼びかけをつくる担当 (A) を決め、それ以外 ・担当を決め、呼びかけとこたえの旋律をつくる の児童がそれにこたえる旋律をつくることを伝 える。 | A - B - A - C | ・つくった旋律を撮影し、クラスルームの課題に 提出する。 ◇旋律を選んだ理由,旋律をつくった時に考えた ・振り返りをワークシートに記入する。 ことを振り返るようにする ◆発想を生かした表現をするために必要な,選ん だ音階の音で旋律をつくること, 反復や呼びか けとこたえを使うことを条件に, 即興的に音を 選択したり組み合わせたりして表現する技能を 身に付けている。 <②技(演奏・動画・ワークシート)> ○選んだ音階の特徴を生かして、即興的に旋律の 音の動きや組合せを工夫し、旋律づくりの様々な 3 本 発想を得る。 ・4~5人グループでつくる旋律の音階を決め 時 る。

- 呼びかけ(反復する旋律)、こたえ、オスティナ ートの旋律をつくる担当を決め、即興的に旋律 をつくる。
- ・つくった旋律を発表し、互いに聴き合って、我 が国の伝統的な音階を使った旋律について、そ のよさや面白さについて意見交換をする。
- ◇「呼びかけ」の担当は、何度も同じ旋律を繰り 返せる旋律にするよう伝える。
- ◇オスティナートの旋律は、ミニキーボードの音 色28,29番のどちらかを使用するよう伝え る。
- ◇【4人グループ】

A—B—A—C—A—B—A—D とオスティナート 【5人グループ】

A-B-A-C-A-D-A-E とオスティナート

◆我が国の伝統的な音階や旋律を聴き取り、それ らが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、 聴き取ったことと感じ取ったことの関りについ て考え,旋律の音の動きや組合せを工夫し,旋 律づくりの様々な発想を得ている。

<思①(演奏・ワークシート)>

- ◆我が国の伝統的な音階を使って旋律をつくるこ とに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみなが ら主体的・協働的に音楽づくりに取り組もうと している。
 - <◆態① 発言,行動,ワークシート>

7 本時の展開 3時間目

(1) 本時のねらい

選んだ音階の特徴を生かして、グループで即興的に旋律をつくり、音楽づくりの様々な発想を 得る。

(2) 本時の展開

〇 学習内容 · 学習活動

- - ◇ 教師の働き掛け ◆ 評価規準〈評価方法〉

- ○常時的な活動をする。
- ・都節音階,沖縄音階それぞれの旋律でロンド形式やリ レーで演奏をする。

【都節音階】…教師のつくった呼びかけの旋律に こたえの旋律をつくりロンド形式で演奏する。

【沖縄音階】…友達の旋律にこたえる旋律を考え ながらリレーで演奏する。

- ◇それぞれ自分の選んだ音階のシートや音板を使う よう声がけする。
- ◇オスティナートの伴奏を流しながら行う。
- ◇つくった時に考えたことを共有しながら,

グループで,()音階の音楽をつくろう

- ○選んだ音階の特徴を生かして、即興的に旋律の音の動 きや組合せを工夫し, 旋律づくりの様々な発想を得 る。
- 4~5人グループでつくる旋律の音階を決める。
- ・呼びかけ(反復する旋律),こたえ,オスティナートの 旋律をつくる担当を決め、旋律をつくる。
- ◇「呼びかけ」の担当は、何度も同じ旋律を繰り返せ る旋律にするよう伝える。
- ◇オスティナートの旋律は、ミニキーボードの音色 番を使用するよう伝える。

・つくった旋律を発表し、互いに聴き合って、我が国の伝統的な音階を使った旋律について、そのよさや面白さについて意見交換をする。

- ○学習の振り返りをする。
- ・グループでつくった旋律の動きやリズムの特徴についてどのような考えが出されたかについて、ワークシートにまとめる。

A—B—A—C—A—B—A—C とオスティナート 【5 人グループ】

A—B—A—C—A—B—A—D とオスティナート ◇つくるときに考えたことを口頭で伝えてから発表 するよう伝える。

- ◇全体を撮影して記録するようにする。
- ◆我が国の伝統的な音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関りについて考え、旋律の音の動きや組合せを工夫し、旋律づくりの様々な発想を得ている。

<思① (演奏・ワークシート) >

◆我が国の伝統的な音階を使って旋律をつくることに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・ 協働的に音楽づくりに取り組もうとしている。 <態① 演奏聴取・発言・ワークシート>